

# かまくら 女性史の会 Newsletter

第 133 号

2025 年 12 月 11 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

## 《フローレンス・ナイチンゲール記章と岩田ウタ その3》

昭和 23 年に医師法、保健婦・助産婦・看護婦法が制定された。これは戦後改革の一つで GHQ の下、アメリカのシステムに準じた法律で国際基準であった。この基準の導入により日本の看護婦は世界に通用する看護婦となった。旧制度の資格取得者は新制度の国家試験を受けた後に、新しい国家免許の看護婦の資格が与えられた。ウタは 1953 年 8 月に取得した。

ナイチンゲール記章を授与するには推薦の根拠が示される。受賞者の業績を問うことにより、ナイチンゲール記章の目指す目標と理念が理解できる。岩田ウタの主な業績は以下（要約）にまとめられた。

- 1) 戦時における献身的な救護活動の実践 戦時に内地の陸軍病院や中支、漢口の兵站病院や野戦予備病院において日夜傷病者の看護にあたった。特に死亡率の高いコレラ患者の看護に尽力し 100% の回復に導き、外科病棟に入院中の中国人患者にも敵味方の区別なく誠心誠意看護に尽くした。
- 2) 関東通信病院において看護管理者として看護体制の確立と新分野の開発
  - ・看護サービスの質向上のため、看護婦を医師の配下から独立させ看護部を設置した。副総婦長の 6 人任用と夜勤専従婦長の配置による管理体制を整備、看護職による副学院長を誕生させた。組織内の女性の地位向上を図り病院内における看護の専門性と重要性を認識させ全国の病院の模範となった。
  - ・看護婦不足と夜勤の労働条件が社会問題化する中、交替勤務者の 24 時間勤務計画表の技法開拓と看護部門へのコンピューター導入に取り組み 1962 年に実施にこぎつけ、看護業務の合理化を図った。電電公社の技術部門との共同開発により病院及び看護部門にコンピューターの導入を図る研究分野のわが国の先駆者である。
- 3) 公衆衛生の分野における貢献 戦後、医療・看護・福祉のニーズの増大と女性の進出分野の拡大により看護婦不足と看護の質の低下を憂慮して、看護婦の基礎教育終了後の卒後継続教育に注力。看護職の生涯教育の場として看護研修センター建設と発展に貢献した。

ウタは晩年に日本看護協会の組織改正にも奔走し、県看護協会法人化の委員会でも先頭に立っていたが、病によりナイチンゲール記章を受賞した 2 年後に亡くなった。妹つる子が喪主となり葬儀を行った。常立寺の墓に令和 7 年 8 月にも真新しい卒塔婆が立った。つる子の親族が墓守をしているそうだ。（終）

参考文献：『博愛の道永遠なる歩み』『日本赤十字社看護婦養成百周年記念誌』『医制百年史』

『国際赤十字』 雑誌「病院」第 26 巻 13 号 雑誌「看護」53 巻 15 号

2025 年 10 月 15 日 かまくら女性史の会会員 山根信子 横松佐智子